

年次支部ニュース

第11号



▲箱根駅伝予選で力走する4年生(右:堀尾選手、左:中山選手)

▶箱根駅伝本戦1区を走る中山選手

◀陸上7種競技のヘンプヒル恵選手

特集

ようこそ
学員会へ

卒業おめでとう!



2019年 ご卒業まことにありがとうございます

中央大学学員会会長

久野 修 慈



今年、卒業された皆さんは、社会人として、或いは大学院等に進まれる方もいるでしょう。どちらに進んでも中央大学の卒業生として学員(同窓)となるわけです。中央大学学員会は、約57万人の全卒業生で構成されている団体です。学員会の目的は、母校中央大学への支援と全学員間の親睦交流にあります。

近年の少子高齢化社会のもとで、入学者も大きく減少にいたる問題として、学生の確保に大学間の競争時代になりつつあります。中央大学では、平成27年に中長期計画が策定され、今年は、5年目を迎え、随所にその施策実行が求められています。4月には、国際経営学部と国際情報

学部が開催されます。また法学部の都心展開も進められつつあります。このように各施策が展開されつつありますが、大学入学志願者の減少など大学間競争も激化する中で、大学当局が自ら確実に施策を実行することが重要なこととなります。学員会としても学員が一丸となって支援していく所存です。

皆さんは、これから社会人としてより充実した人生を謳歌することを期待していると思います。新しい年号こそ若い人の時代で頑張ってください。学員会と交わりをもち活用してください。

学員会の構成は、各卒業年度で構成する年次支部があり、各支部を横断的

に交流する年次支部協議会が幅広く活動しています。また、全国の都道府県に地域の支部、職業区分による職域支部があります。卒業生は、これらの希望する支部を選んで入会できます。そして、交流のネットワークの下にゆるぎない絆となり、終世交流を図れるでしょう。

卒業生の皆さん、明るく健康で気概のある若者となって国内外の企業や地域社会、学校などでお役にたてるよう前進してください。我々は、皆さんが各支部に入会されることをこころ待ちにしています。どの支部も若い学員を大歓迎しています。

卒業生インタビュー

この春学窓を巣立つ卒業生を代表して、注目の箱根駅伝を走った陸上競技部長距離ブロックの選手たち6人に、中央大学での4年間を振り返ってもらいました。関口康平主将以下4人はアンケートで、中山顕副主将と苗村隆広寮長にはインタビューで答えていただきました。

(聞き手：年次支部協議会副代表 佐藤愛子)

中央大学陸上競技部長距離ブロック6選手に聞く



インタビューで

中山 顕(法学部)・苗村隆広(文学部)

敬称略以下同

Q. 今年(平成31年)の箱根駅伝、走る前の意気込みと走った後の感想は?

中山顕選手(1区) 後輩たちにいい置き土産を残したいと思って走りました。区間賞は逃しましたが、ミスなく走れたので悔いはありません。



中山顕選手

Q. 特にマークしていた選手はいましたか。

中山 東京国際大学の留学生タイタスや青山学院の橋詰選手らです。

苗村隆広選手(9区) 自分にできることをシンプルに考えて前を追いしました。4年間のうちでは一番力を出し切れたレースだったと思います。

Q. 中継所では差があまりありませんでしたね。

苗村 明治、早稲田、日大、中央、日体大、東京国際大がほぼ集団できました。そのなかで早稲田の新迫選

手には負けまいと頑張りました。

Q. 学業との両立、健康面で気を使ったことは?

中山 極力授業には出るようにしていました。

苗村 勉強のポテンシャルでは他の学生にかなわないので、出席やレポートで点数を稼ぐように努力しました。体連の陸上部だから、と言われないように空いている時間を勉強にあてました。

Q. 中央大学で学んで、走り以外で心に残ったことは?

中山 クラスの友達に恵まれたことです。

苗村 ゼミで孤立していた時に、クラスメートが仲間に入れてくれたことです。

Q. 苗村さんは寮長ですが、みんなをまとめる苦労はありましたか。

苗村 一年2回の部屋替えのときは選手同士の相性を見極めるのに苦労しました。1年生はいきなりの寮生活ですから、生活のリズムを覚えさせるため、同部屋にする先輩の人選に苦労しました。幹部ミーティングを実施し、風通しの良い寮生活が送れるよう腐心しました。

Q. 仲間・同学年・後輩たちへのメッセージをお願いします。

苗村 この学年は本当に仲が良く、助けられてばかりだったので感謝しています。後輩へは、苦しい時ほど自分と向き合うことを意識してほしいと思います。

中山 4年間でいい仲間と出会えたなと思っています。“中大復活”を託すのは後輩しかないので、来年こそはシード権をとってほしいと思いますし、さらにその上も目指してやれば届くのではないかと思います。

Q. 卒業後の抱負や決意、意気込みを語ってください。

中山 ホンダ技研工業で陸上を続けます。設楽選手のような強いランナーに学びマラソンでパリ開催のオリンピック出場を目指します。

苗村 警視庁に就職し、4月から警察学校に入学します。いつかニューイヤ駅伝に出場し、中山が速すぎたらスピード違反で取り締まります。



苗村隆広選手



箱根駅伝予選会(立川)での力走 中山顕選手



堀尾謙介選手



関口康平選手

アンケートに答えて

堀尾謙介(経済学部)・関口康平(理工学部)・北村 祥(経済学部)・神崎 裕(文学部)

Q1. 今年(平成31年)の箱根駅伝、走る前の意気込みと走った後の感想は? 他大学で意識した選手は?

堀尾謙介選手(2区) 人生のうちでもう箱根を走ることはないので、結果にこだわって走ろうと思いました。順天堂の塩尻選手を意識していました。

関口康平主将(7区) 緊張しすぎて何も覚えていません。楽しんで走ることだけは忘れないようにしました。走り終わった後は、最後に少し離されてしまったことに悔しさを感じました。憧れの舞台に立った満足感に終わらず、勝つべき試合の一つとして悔しさが残ったのは少し成長できたのかなと思います。

Q2. 学業との両立、健康面で気を使ったことは?

北村祥選手・経済学部 時間を見つけて勉強に取り組みました。健康面では朝練があるので、次の日の準備を早く終わらせて早めに寝るようにしました。

神崎裕選手・文学部 単位はきちんと取って、卒業できるように気を付けていました。

堀尾・経済学部 陸上の時間とプラ

イベートの時間をしっかり分けて過ごしたことです。

関口・理工学部 出席できなかった講義内容を教えてもらうなど同じ学部の人に助けを借りて両立できました。健康面では質の良い睡眠を心がけて、体の回復に努めました。

Q3. 中央大学で学んで心に残ったことは?

関口 寮生活。風呂も食事も常に誰かがいるのはしんどかったけど、結果を出している選手がどんなことをしているのか、生活面から学べたことは収穫でした。

神崎 箱根駅伝です。それと彼女ができました。

堀尾 友人が箱根駅伝の応援に来てくれたことです。

Q4. 関口さんは主将ですが、みんなをまとめる苦労はありましたか。

関口 ネガティブな発言や態度はなるべく見せないよう心掛け、どんな時も自分が一番前向きでいようと意識していました。部員間にはギャップがあり、それを埋める難しさは常に感じていました。

Q5. 仲間・同学年・後輩たちへのメッセージは?

神崎 箱根を走れて満足したけど、4年目はとても苦しみました。早く新しい目標を定めることが大切だと思います。

関口 最後まで頑張ってくれた4年生みんなに心の底から感謝します。途中でやめたメンバーにも、一緒にやってくれてありがとうと言いたい。後輩たちには、楽しむことを忘れずに自信をもってやってほしいと伝えたい。

北村 後輩たちには、後悔しないよう部活に限らず頑張ってくださいと言いたい。

Q6. 卒業後の抱負や決意、意気込みを語ってください。

堀尾 マラソンで世界と戦えるような選手になります。(アンケート後の東京マラソンで日本人1位となりMGC出場権を獲得)

関口 IT系の企業に就職します。中山や堀尾などのオリンピック選手に負けにくいぐらいの活躍を社会人で成し遂げます。

北村 社会人という第二の人生をその場所で結果が残せるような人間になります。

神崎 精一杯生きていきます。



インカレ優勝祝勝ポスター

ヘンプヒル恵さんは、1996年アメリカ人の父と、日本人の母との間に生まれ、ビジュアルも大変可愛らしくスタイル抜群な美女アスリートである。中高一貫教育の京都文教中学校時代にすでに四種競技で優勝し、高校時代はインターハイ七種競技新記録で2連覇した経歴を持つ。中央大学出身の先生の勧めもあり中大進学後は、2016、2017年日本陸上競技選手権大会七種競技に、日本歴代2

ヘンプヒル恵(文学部4年)

日本選手権3連覇、関東インカレ4連覇
日本歴代2位の堂々の記録

女子陸上競技選手
(七種競技中心)



位の記録で2連覇を達成しアジア大会などにも出場している。七種競技とは、2日間で100Mハードル、走高跳、砲丸投げ、200m走、走り幅跳び、やり投げ、800M走をこなす大変きつい混成競技である(得意はハードル走、好きなのは幅跳び)。毎日4、5時間、過酷な練習では瞬発力(スピード)を養うことなど全種目共通の独自のトレーニングを極め、筋肉を強く早く回復することや、身体を作るために翌日の練習に向けての食事のとり方、休みの過ごし方などに常に留意しているそうである。

4年間で彼女の最も忘れられない出来事は、2017年8月の左膝に全治10か月レベルの大けがを負い戦線を離れざるをえなかった時、仲間や周りが「人として支えてくれた」ことが嬉しくてリハビリも相当頑張りが4か月で復帰を果たした時の経験

だそうだ。怪我をして初めて見えてくるものもあり、苦しい悔しい思いもしたが、最近は競技ができるのが楽しくて仕方ないと思えるようになった。復帰後人間的にも成長した彼女は4年生の最後の全日本インカレで見事に優勝を果たす。卒業後は初のアスリート社員の新卒採用をするJR東日本アトレに入社、6000点超えの日本記録を目指し(現自己記録日本歴代2位5907点)、2020年東京五輪出場が期待されているが、パリ五輪のメダルも視野に置いて頑張りたいと話す。

社会人アスリートとして世界に羽ばたくヘンプヒル恵さんをこれからも応援し続けたい。
(取材協力/女子陸上主務 出水楓さん、取材/広報部 佐藤、柳)

■ 中大生に伝えたいこと

2019年3月末に、23年間にわたる教員生活に終止符を打つことになった。退職に当たって、中大の学生諸君に伝えたい2つの「思い」を述べさせていだきたい。

一つは、学生に中大の建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養ウ」ような勉学を心掛けて欲しいという思いである。11年間に及んだ商社マン時代に、大学で学んだ経済学の理論にはそのまま現実に通じないものが多いことを痛感した。それ故、その溝を埋める研究や授業を心掛けてきたが、学生諸君にも、単に理論を学ぶだけでなく、現実への応用へと展開することを心掛けて欲しいものである。それこそ、我が中大の校是に

私の卒業(退職)によせて

経済学部教授
中條 誠一

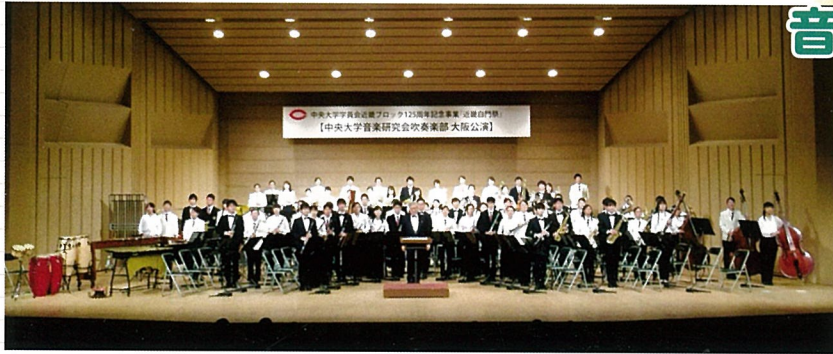
沿う勉学姿勢だからである。

もう一つは、学生諸君にこれからの長い人生において、良き人的ネットワークを築いていただきたいとの願いである。寒村の農家に生まれた私が、思いもかけず大学で教鞭をとれたのは、中大で素晴らしいゼミの先生と出会い経済学に目覚め、その後も度々夢を断念せざるを得ないような窮地に陥っても、人と人との絆によって脱出できたからである。人的ネットワークこそ、人生にとっての大きな財産に他ならない。学生諸君には、多くの邂逅の中で、相互に信頼と尊崇の念を抱けるような良き



絆を結ぶことを心掛けて欲しいものである。

音楽を通じて繋がる輪



大阪公演（近畿白門祭）

中央大学音楽研究会吹奏楽部
江上 聡美

私が4年間所属していた吹奏楽部では、年2回の自主公演の開催の他、全日本吹奏楽コンクールへの挑戦、学内での記念演奏、各種依頼演奏等、年間多数の演奏活動を行っています。八王子市や東京都内を中心に活動を行っていますが、2018年は、その枠を超えた新たな演奏活動が多い1年となりました。

その1つが、昨年11月に開催された「近畿白門祭 中央大学学員会近畿ブロック125周年記念事業『中央

大学音楽研究会吹奏楽部一大阪公演』です。同ブロックの125周年という節目にあたり、記念事業の一環として、吹奏楽部が演奏会を開催させていただきました。演奏会では、中央大学の吹奏楽部に加え、大阪府の高校2校の吹奏楽部の皆様にもご出演いただき、それぞれが単独で演奏を披露する他、最後には3校合同での演奏も行いました。普段はなかなか機会のない大阪での演奏で不安もありましたが、お客様

が私たちが温かく受け入れてくださるような雰囲気の中で大変気持ち良く演奏することができ、音楽を通じた出会いや繋がりがこんなにも素晴らしいことなのかと実感しました。そして、この繋がりが今後さらに大きな輪になることを祈念しております。

最後になりましたが、大阪公演の開催をはじめ、4年間吹奏楽部で活動するにあたり、大変多くの皆様に支えられてきました。ご支援いただきました皆様、そして、日頃から吹奏楽部の演奏を楽しみに演奏会に足を運んでくださった皆様へ、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

前を向こう！ 卒業50周年

白門43会支部

白門43会支部は15年に支部創立20年、18年に卒業50年を迎え、今同期会としての活動が益々活発になっている。20歳ちょっとの仲間であった我々が50年後の今こんなに仲よく元気に活動することになるとは夢にも思っていなかった。

加齢・健康への気持ちはあるものの、毎年2回の全体懇親会、毎偶数月の役員会、各委員会・同好会など続けて動き、毎回少しずつではあるが新しいメンバーが参加して下さるといのは本当にうれしい。これも母校中央大学の素敵なブランド「白門」があればこそである。

卒業50年にあたっては今の時代に相応しく、「画像」を充分にとり

いれたものを「記念パンフレット」や「記念DVD」としてまとめ、残すことができた。今、会紹介のための見やすく、楽しいホームページを展開中である。「白門43会」で検索、ご覧いただきたい。私たちの活動紹介だけではなく、「人」「趣味」「芸術」など幅広く盛り込み、会員以外の皆様にもぜひご紹介したいもの。

各年次会でも共通の話題であろう「財務健全化」についても見直しを行い、今後制度改革によりさらに前を向いた活発な活動をしたいと思っ

ている。

この2月「新春の集い」を開き、先輩・柳家小団治さんの楽しい落語を加えて、なごやかな懇親会があった。お開きにはみんなで固く・仲よく肩を組み「惜別の歌」を斉唱、参加者一同大きく胸をうつものがあった。

ここにあわせて、ご自身の年次活動にプラスして「年次支部協議会」の運営にたずさわって努力して下さる役員の皆様に心から感謝したい。

（幹事長・清水 正）



学会・年次支部協議会のページ

ワイガヤ 学生 × OB・OG × 学会



中大の魅力をみんなで考えませんか？

57ネットが企画しました

2018年6月に学会主催の「中央大学ブランド力向上企画コンテスト(支部対抗)」が募集され、8月末に白門57ネット・変人学部で提案書を提出し、9月の審査会で最優秀賞に選出されました。選出後、学友会連盟会議にも合流いただき、学会とともに4者一体となりプロジェクトを進めてまいりました。

ブランド力=広告宣伝ではありません。滲みでる魅力、しかも他を寄せ付けられない圧倒的な魅力が真のブランドです。企画意図は、学生に中央大学「らしさ」を再発見してもらい、「ブランディング」の本質を知ること、セルフブランディングを意識し、学生生活の充実、将来社会に出てからも貢献できるような「考え方」を知ってもらうためのシンポジウムイベントを提案した次第です。それは、一方通行の講演ではなく、車座のような議論を通じて、学生が体験的に理解する「ワイガヤ」が提案のツポでした。

提案内容には自信がありましたが、当初から懸念していたのは学生の集客で、卒業後36年もたつ我々には学生とのパイプもなく、今のデジタルネイティブな若者の行動を知る由もありません。そこには、文化連盟、体育連盟、サークル、200を超えるクラブをまとめる学友会連盟会議代表の高橋さんのリーダーシップにより、11月24日のシンポジウムイベントには、約120名の参加者を集め

ることができました。

ブランディングのプロであるキャノンマーケティングCSR部主幹である細田さんが大学ブランドについて講演し、ブランドの重要性と本質が参加学生の自分事化され、大学ブランドを考えることで、自分自身の学生生活、これからの人生に有益であることが伝わりました。

参加学生から講演の感想をいただきましたが、ネガティブな意見は全くなく、「参加して本当に良かった」「中央大学、自分を考える貴重な機会となった」「学部、学年を超えて学生が議論できたことが良かった」「OB・OGと話せてよかった。OB・OGのサポートが嬉しかった」「学生生活だけでなく、卒業後も役に立つ話だった」「部に戻ったらみんなで共有し、自分が伝道者になる」「また次をやってほしい」等々学生の反応は今回の企画をきっかけに、学生生活、卒業後に対しても非常に前向きな気持ちになったことが、最大の収穫と思っています。

今回は、ブランディングを考えるまだ1stステップです。今後120名の学生が伝道者となり他の学生に伝えるとともに、学生だけでは限界もあるため、大学も一体となり取り組む必要があります。これからも輝き続ける中央大学であるために、大学、学生が一体となり推進する運動を白門57ネットはもちろん、卒業生全体で支援していきたいと思ひます。

『水の白門レガッタ』は北東に轟く

昨秋、第3回を数える『白門駅伝』が催された多摩キャンパスの位置する多摩丘陵は、東海道や鎌倉街道が貫いて遠く箱根路へと南に迫り、西は関東山地と接して彼の大菩薩嶺は甲府盆地を見下ろす。故に『陸の白門駅伝』に乗った母校「中央大学」の名声は「南西」へと響き渡る。

其処に昨冬12月9日(日)、埼玉は戸田の地に復活を遂げたのが『白門レガッタ』である。御当地、戸田は北に足尾山地、阿武隈高地を仰ぐ関東平野の中心に位置し、関東平野は東に遥か鹿島灘、更には房総をも臨む。そう、『水の白門レガッタ』は「北東」を見据え、母校「中央大学」の誉れを関東平野一帯に轟かすのを目論むのだ。

当日は菅原文仁戸田市長の挨拶に始まった。「白門四八会」の同期とオールを握った酒井正三郎総長を筆頭にクルーは200名を優に超え、学

青森三戸りんごカレーを限定販売

中大理工

2019年1月28日(月)～31日(木)4日間、理工学部3号館食堂にて中大理工りんごカレーが限定販売された。このカレーは、白門44会支部・白門りんごの会(松木茂夫会長)と理工学部中村太郎研究室が支援している青森県三戸町のりんご生産者のりんごをふんだんに使用している。

三戸町の地形は山に囲まれた盆地で、名久井岳から吹きおろす冷気により甘くておいしいりんごができる。

理工学部創部70周年を機会に、

水上を滑る喜び、
48会の皆と共に漕ぐ嬉しさ



白門48会艇Ⅰに乗る酒井総長
(右から3番目)

生から14艇、学員や父母連から40艇の計54艇が「中大水上最速」の座を競った。

大学は創立140周年(2025年)に向けて、緑豊かで施設の整ったグローバル指向の多摩キャンパスと、後樂園を中心に先進的な教育研究とプロフェッショナル養成に注力した都心キャンパスの「二大キャンパス体制の形成」を謳う。

そして学員会は、東京多摩を拠点に遙か南西に名声響く『陸の白門駅伝』と、埼玉に発して遠く北東へと誉れ轟く『水の白門レガッタ』の「二大イベント体制の形成」を策すのである。(学員会副会長 山本 卓)

中央大学商学部 プレゼン大会開催 ゼミ学生による

3年前から継続している学員会年次支部協議会大学学員交流部企画、学生による様々な研究テーマ(OB向け)のプレゼン大会が2019年2月9日に駿河台記念館において開催された。今年は商学部から酒井総長と酒井ゼミ2チーム8名、本庄ゼミ2チーム5名の学生13名、OB33名による総勢47名が参加して開催された。

本庄ゼミ学生のチームDは「都道府県所得と人口移動の関係」、チーム野獣は「クラウドファンディングにおいて動画掲載がプロジェクトの成功に与える影響の実証分析」、酒井ゼミチーム貔貅は「日本と中国のキャッシュレス化を考える」、ムーンライトチームは「中国小売市場における実店舗の可能性」など、4チームから各々独自のテーマでの研究成果の発表があり、OB達からは社会人としての実績を踏まえた別の視点から鋭い質問が飛び活発な意見交換が行われた。



ゼミ学生によるプレゼンテーション

このような形での現役学生とOBの交流は他に例がなく、毎回違う研究テーマ発表をする学生諸君と一緒に、日本の今後の在り方などを考えるのはとても貴重な機会である。就活間近の3年生には又違う緊張感があったようだが、昼食会でOBとそれぞれ違うゼミの学生が混じりあった席のテーブルを囲んで語り合った。最後に最長老である堀合学員会副会長の1本締めで老若男女の中大魂が一つになって、心が温かくなった。

今後も工夫を重ねてこの企画を継続していきたいと思う。

(佐藤愛子記)

長田繁氏(学員日華友会支部支部長)の発案により、榎山理工学部長の強力な後押しにより実現された。

本谷恵介料理長(中大生活協同組合食堂事業部理工食堂店長)が試行錯誤の結果、りんごのすりおろしをベースにトマト・ヨーグルトを隠し味として加え、りんごの風味を生かしたカレーにりんごのコンポートを添えた特性カレーを450円で仕上げた(写真:真中が通常カレー・両サイドがりんごカレー)。試食した感想を一言で表現すると、現在の学食カレーはアンテークなカレー、子供の頃、学生の頃を思い出すカレー、一方限定りんごカレーはモダンなカレー、りんごの甘い風味が強い



が、スパイシーさが後味として残るカレーであった。2センチ角のりんごのコンポートもデザート感覚でカレーを引き立たせていた。一日20食限定で販売したが、「初日の28日は80食、29日は60食、30日は70食、最終日の31日は80食と大成功でした」と本谷料理長は自画自賛していた。りんごカレーが今後多摩校舎食堂へと拡大し、中大オリジナル人気メニューとして定着していくことを

期待したい。

白門りんごの会は、東北復興震災応援、三戸町りんごブランド力向上、地域交流を目的に、白門44会支部が中心となり6年前(2013年)に発足し、会員は120名(2018年12月現在)。会費は年1万円。りんごが年2回配布される。白門りんごの会と三戸町とが地域交流を継続している縁により、2018年6月に理工学部中村太郎教授の研究室と三戸町との間で、農作業負担軽減のための農作業アシストスーツ改善・普及促進のための個別連携協定が締結された。大学が推進している地域連携活動にも白門りんごの会は貢献している。

(白門りんごの会 松木茂夫)

お知らせのページ

大学からのお知らせ

2018年度(第136回) 中央大学卒業式・大学院修士学位授与式

理系

日時：2019年3月24日(日)
場所：後樂園キャンパス
5号館4階アリーナ

文系

日時：2019年3月25日(月)
場所：多摩キャンパス第一
体育館3階アリーナ

2019年度中央大学入学式

理系

日時：2019年4月3日(水)
場所：後樂園キャンパス

文系

日時：2019年4月2日(火)
場所：多摩キャンパス

今年活躍が期待されるスポーツ選手

■第23回2019アジア大会

4月21日～24日 カタール・ドーハで開催

出場決定

▶七種競技

ヘンプヒル恵(文4) 女子陸上競技部

▶中距離1500m

田母神一喜(法3) 陸上競技部

▶短距離200m

飯塚翔太(ミズノ(株))

学生会今後の予定

●全国支部長会議

2019年5月17日(金) 開催予定

●定時学員総会・定時協議員会

2019年5月18日(土)

●第28回ホームカミングデー

2019年9月29日(日) 後樂園キャンパスほか

学生会とは？

中央大学では卒業生を学員と呼び、同窓会組織を学員会と称します。学員会は2015年に創立130周年を迎えた伝統を誇り、学員は57万人を数えます。学員会には250の支部があり地域支部(その地域に居住、在勤する学員組織)126支部(内海外支部18)、職域支部(職種・企業・出身サークルなどの組織)62支部、年次支部(その年に卒業した年次の組織)62支部で構成されています。様々な分野で活躍されている57万人のネットワークを繋ぎ、皆さんが交流・発信する場とサービスを提供しています。

【問い合わせ先】中央大学学員会本部事務局
(本会の運営及び事務処理)

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台
3-11-5 駿河台記念館7F

TEL: 03-3219-6175

<http://www.chuo-u.ac.jp/chou-u/gakuinkai>

祝

卒業生全員に「学員会から」
卒業を記念して

「卒業記念Mug Cup (COACH)」を贈呈

～学員間の絆の広がり、学員間の親睦の証～



卒

業

新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

▶スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)

各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。

▶会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成

▶趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実

▶同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る

▶講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局: 03-3219-6175

《年次支部ニュース 第11号》 2019年3月10日 発行

発行者/中央大学学員会年次支部協議会

発行人/半澤 勉

編集/年次支部協議会広報部

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局気付

TEL 03-3219-6175

印刷所/(株)ディスカバリー